

る生活再構築を目指した日常生活の支援を含む幅広い社会的活動へと変化してきています。そして、これからの医療は地域社会において介護や福祉と緊密な連携を作りだして、総合的な生活支援の一翼を担うことになることが期待されています。

そのような総合的な支援体制は、日常生活の場である地域コミュニティにおいて作り上げていくというのが「地域包括ケアシステム」の考え方です。

このような医療の役割の変化・拡大に対応するために、医療人を育成する教育課程において何が必要なのであろうか？「地域包括ケアシステム」の概念の共有と必要な教育について議論を深めることを目的といたします。

実施日時：平成二十九年十一月十八日（土）午後一時三十分から五時
まで

実施内容： 熊本大学大学院生命科学研究所 司会 熊本大学大学院生命科学研究所 教授 宇佐美しおり氏

熊本大学大学院生命科学研究所 准教授 古川 昇氏

講演一 医学教育における地域包括ケア教育―長崎大学の取り組み―

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

地域包括ケア教育センター長 永田康浩氏

講演二 地域における地域包括ケアの実践 医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーションシヨ

ン病院 理事長

平田好文氏

講演三 医療系専門職養成大学における地域包括ケア教育

熊本保健科学大学 地域包括連携医療教育研究センター 教授 竹熊千晶氏

講演四 熊本大学医学部医学科の臨床教育、特に地域医療教育における取組

熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター長 松井邦彦氏

講演五 医師会から見た地域包括ケアの教育への提言

熊本県医師会 理事 金澤知徳氏

参加募集対象者 医学・医療技術関連の大学や専修学校における教育・運営などの担当者、各医療技術専門家協会の後継者育成担当者、医療・保健行政担当者、一般の希望者

平成二十九年医学研究会・研修会等への助成を行う

平成二十九年度は、次の十五件の学会、研究会、研修会等に助成が決定しています。

・熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修会等 四月一日～三月三十一日

・トラウマ・うつと、どうつきあうか―自分と家族、仕事におけるセルフケア― 四月十五日～三月十八日

・熊本地震シンポジウム二〇一七 四月二十二日～二十三日

・第五十四回九州外科学会・第五十四回九州小児外科学会 五月二十六日～二十七日

・第五十三回九州内分沁外科学会 第九十回日本ハンセン病学会総会・學術大会 六月九日～十日

・第二十五回日本乳癌学会學術総会 七月十三日～十五日

・第二十七回国際喘息学会日本・北アジア部会 十月五日～六日

・第三十九回むし歯予防全国大会 KUMAMOTO 十月二十一日

・蕃滋祭（葉学展） 十月二十九日～三十日

・第十七回熊本エイズセミナー国際シンポジウム 十月三十日～十一月一日

・第二十八回日本消化器癌発生学会総会・第九回国際消化器癌発生会議 十一月十七日～十八日

・第三十三回熊本医学・生物科学国際シンポジウム 十一月十八日

・第十七回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ 十一月二十五日

・第五十八回日本肺癌学会九州支部学術大会・第四十一回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会 二月二十三日～二十四日

・第十六回国際アミロイドーシスシンポジウム 三月二十五日～二十九日

平成二十九年（第二十二回）肥後医育振興会医学研究助成を行う

平成二十九年（第二十二回）肥後医育振興会医学研究助成金授与候補者の選考が、平成二十九年九月五日に肥後医育振興会助成選考委員会において行われました。

平成二十九年の助成選考委員会委員は、それぞれの所属機関から推薦を受けた次の七名です。熊本大学大学院生命科学研究所から富澤一仁教授（基礎系）、荒木栄一教授（臨床系）、河野宏明教授（保健学系）、薬学部から今井輝子教授、センター系から熊本大学生命資源研究・支援センターの荒木喜美教授、熊本県医師会から江上 寛理事（宇城総合病院院長）、関連病院から熊本赤十字病院の三浦正毅副院長で構成され、互選で富澤一仁教授が委員長となつて、応募者ひとり一人について公正且つ厳正な選考が行われました。

本年度の応募者は、熊本大学大学院生命科学研究所及び医学教育部から九名、同医学部附属病院から四名、同発生医学研究所から一名、同生命資源研究・支援センターから一名、同エイズ学研究センターから二名、熊本保健科学大学から一名の計十八名であり、その中から次の四名が授与候補者として選考されました。その後、理事長に推薦し、理事会において承認された後、それぞれに十五万円が贈呈されることになりました。